**（1）主題名　親切のあたたかさ　〔小学校高２－（２）〕　　関連項目〔２－（１）〕**

**（2）ねらい　思いやりの心をもち，相手の立場に立って行動しようとする態度を養う。**

**（3）資料名　「心に通じた「どうぞ」のひとこと」（出典：東京書籍）**

**資料の概要**

**電車の中で，前に立つおじいさんに席を譲ろうと思った「ぼく」。しかし，「どうぞ」の一言がなかなか言えず，降りるふりをして席を立つが，その席に他の人が座ってしまう。乗客が少なくなったころ，やっとおじいさんも座っているのを知りほっとする。やがて，いくつかの駅を過ぎ，ふと人影に目を上げるとあのおじいさんが……。僕の手を包み，「ありがとう」と言い，降りていった。**

**（4）学習指導過程**

| | 学　習　活　動 | 主な発問と児童の心の動き | 留　意　点 |
|---|---|---|---|
| **導入** | 1　資料を読み場面状況をつかむ。 | ○資料を聞いて場面状況をつかもう。<br>・席を譲りたいが「どうぞ」が言えないぼく<br>・ぼくに，おじいさんはわざわざ「ありがとう」と言いに来てくれた | ○ぼくの置かれている状況を共通理解させる。 |
| **展開** | 2　課題を確認する。 | ○課題を確認しよう。<br>ぼくは，なぜ泣きそうな顔でほほえんだのだろう | ○ぼくの置かれている状況から課題を設定する。 |
| | 3　考えを出し合う。 | ○自分の考えを出し合おう。<br>【驚きと喜び，嬉しさ】<br>・おじいさんが気付いてくれていた<br>・おじいさんの優しさ，思いやり<br>【後悔，恥ずかしさ】<br>・「どうぞ」が言えなかったぼくに「ありがとう」と言ってくれた<br>・わざわざ言いに来てくれた<br>【腹立たしさ，情けなさ】<br>・大事な一言が言えない勇気のなさ<br>・おじいさんの温かさが心に響く分よけいに情けなくなる | ○ネームプレートを使い，課題に対する一人一人の判断とその理由をはっきりさせる。<br>○理由の違いを分類・整理して板書し，自他の考えの違いに気付かせる。 |
| | 4　質問や意見を出し合い，追究する。 | ○言わなくても心は通じるのだろうか<br>・心がこもっていれば態度で伝わることもあるが，言葉もある方が・・・<br>・「ありがとう」は魅力的な言葉<br>○言葉が伝えるのは，心だけなのだろうか。<br>・その人らしさ，人柄・・・<br>○本当に相手を思いやるとは，どうすることだろう。<br>・相手に真心で接すること | ○意見交流しながら，焦点化していく。<br>○深めるために，左のような発問を準備しておく。<br>○人の心の温かさを感じた体験などを出し合いながら考えさせる。 |
| **終末** | 5　まとめをする。 | ○今日の学習での自分の考えをまとめよう。<br>・おじいさんの温かさは泣きそうになるぐらい嬉しい・・・ | ○自分を振り返りながら自分の言葉でまとめる。 |

# 実践報告にみる留意事項

## １　資料・題材について

児童は，お年寄りや幼い子に思いやりをもって接したいという気持ちを持っている。しかし，この資料の主人公（ぼく）のように，いざとなると，なかなか言葉や態度に表すことができない。そこで，この資料を使って，言葉や態度の背景にある相手を思いやる気持ちについて考え，相手の立場に立って行動しようとする態度を育てていきたい。

## ２　指導過程の工夫

おじいさんの優しさや真心に深く感じ入っている主人公（ぼく）に寄り添って考えさせるため，資料の後半部分（『～にっこり笑って，列車からおりていきました。』以降）をカットした。そして，文中から「ぼくは，なぜ泣きそうな顔でほほえんだのだろう。」と学習課題を提示した。「泣きそうな顔でほほえんでいる」主人公を語るには，

・揺らいでいるぼくの思い
・おじいさんとぼくとのかかわり
・おじいさんの温かさ　　など，直接に気持ちを問わなくても，行為の背景にある心を語っていくことができると考えた。

## ３　発問の工夫

本資料の場合，ぼくは「どうぞ。」と言えなかったが，おじいさんはぼくの好意を受け止めたくれた。そこで，児童の思考の流れに沿うことが前提だが，「言わなくても心は伝わるのだろうか。」という発問を準備し，深めるきっかけとしたい。

## ４　児童の反応

資料後半をカットし，「ぼくは，なぜ泣きそうな顔でほほえんだのだろう。」と問うことにより，次のような意見が出た。

・席を譲ったことを，思いがけずわかってもらえた嬉しさや安堵感，存在感から。
・「ありがとう。」「座らせてもらいましたよ。」と言われ，おじいさんの優しさと「どうぞ。」と言えなかった自分自身への腹立たしさや悔しさが一層鮮明になったから。

・わざわざ声をかけ，手を包んでくれたおじいさんの心の温かさにふれたから。
・「ありがとう。」に対し「ごめんね。」の思いでいっぱいになったから。等々。

また，恥ずかしかったりタイミングを逃してしまったりで後悔したこと，思いきって声をかけ喜ばれたことや「ありがとう」と言われ心が和んだなどの体験も出された。何気ない言葉や態度という形の背景にある「心」の存在を実感することができた。

## ５　授業後のフォローアップ

相手に対する思いやりのない言葉や態度は，人の心を豊かにしない。人と人とが円滑な人間関係を保っていくためには，何気ない言葉ほど意識して使いたい。家庭との連携はもちろんのこと，ボランティア活動や高齢者とのかかわり，地域活動等の異なる年齢・体験をもつ集団の中での活動や体験をし，広く人とかかわる機会をもつことも大切ではないかと考える。

（竹尋小学校）